事例９　新たな架線集材システムの実証　（四国森林管理局）

・高知県四万十市(しまんとし)
・（左）油圧集材機　　（右）架線式グラップル

森林資源の循環利用を推進していく上では、木材生産・育林コストの低減等による効率化と併せて、皆伐等の森林施業に伴う土砂の流出等のリスクの軽減を図ることが重要であり、林野庁では、これまで以上にきめ細やかに林地保全に配慮した施業に取り組んでいくこととしています。

急傾斜地の多い四国森林管理局では、林地保全に配慮し架線系の作業システムを選択している伐採現場が多いことから、安全で効率的な新たな架線集材システムの実証・普及に取り組んでいます。令和３年度は、四万十森林管理署において、株式会社イワフジ工業が開発した「油圧集材機・架線式グラップルシステム」の実証試験を実施し、油圧集材機と架線式グラップルを安全な場所からラジコンで遠隔操作し、伐倒木の荷掛け、搬送、荷下ろしを実施することができることを確認しました。実証試験には、多くの林業事業体等が参加し、本システムの実用性について認識を深めました。

現在、伐倒木の荷掛け等の自動化に向けた開発が行われているところであり、同局では、開発の進捗状況等を確認しつつ、今後も林業事業体に最新の技術を普及していくこととしています。